

※手書きで送っていただいた作品でしたが、そのまま PDF に読み込むと見づらいため、PHD 職員の方で Word に起こしています。

「国際協力と観光のコラボ」

神戸学院大学 2 年 前野恵太

私は国際協力と観光をコラボさせることを考えました。なぜなら世界には様々な名所やスポットがあります。その魅力を国際協力を行う国の先で伝えることが協力先の国民の自信や希望に繋がると考えるからです。「その場所について詳しく知りたい」や「行ってみたい」という感情を起こさせ興味を持たせることが狙いです。

観光とのコラボをどのような方法で実施するかというと、まずは国際協力先の国のことを第1に考え、自国を知ってもらうことから始めます。国民の知らない自国の名所を写真とその説明によって伝えます。農村部にはなくても都市部にはあるものやきれいな海などといった自然の魅力も伝えることが可能です。何か一つでも自分の住んでいる国に誇れるものがあるということを国民に分かせます。そして、それを国民の自信に変えるのです。国民一人ひとりの自信は国の発展へ繋がると考えるため、まずは国民に自国の名所や良さ、誰もが一度は訪れてみたいと思う場所があることを伝えるのです。

次に世界の観光名所を伝えていくのですが、日本は協力先の国からしたら、世界にあたるので、日本の名所を紹介するのです。なぜかというといつか協力先の国民が観光に行きたいと思う日が来たならば、自国の名所の次に日本に来て欲しいと考えるからです。日本は住み良いと感じますし、「おもてなし」の心があります。また日本各地に史跡や高層ビルなどといった観光名所があります。これを是非国際協力先の国民に印象付けさせたいからです。さらに日本には世界に誇る技術があります。その技術や知識を持ち帰り、自国の発展に活かして行って欲しいからです。かつての日本も明治時代に西洋の技術や文化を取り入れることで、文明開化という大きな発展を遂げました。このように日本という先進国の技術は必ず役に立ちます。それを模倣することは開発途上国の発展に必要なだと感じます。よって、協力先の国民に日本の観光名所や日本の心また文化といったことを伝えます。その取り組みを行う上で日本の魅力を分かって頂けたら良いなと感じます。

日本の観光名所を伝えた次は協力先の国から近い国々の名所を紹介し伝えていきます。なぜならアクセスの良さも重要だと考えるので、足を運んでもらえる可能性の高い、近隣の国々の名所を紹介するのです。世界には数多くの観光名所やきれいな自然、その景色が広がっています。それを知ることは自分の知らなかった世界を知ることです。すなわちまだ見ぬ世界の無限の可能性への扉になります。また知り得た知識や見た写真は国民の希望に変わると私は考えます。このような国際協力が実現すれば開発途上国であろうと自信と希望を持つことができます。この二つは国の発展のために非常に重要な事柄であると、私は考えます。

この企画をどのような期間で実施するかというと一年かけてゆっくと自国と日本の観光地について伝えていきます。自分が何気なしに暮らしていた森や近くの海が世界から見れば緑広がる貴重な森かもしれないし、エメラルドグリーン色をした非常にきれいな海か

もしれない。それを分かってもらい世界に発信すべき場所や人だという意識を持ってもらいたい。そして、その次に日本についても紹介する。その後、近隣及び世界の国々の名所の紹介を一年を目安にして行っていく。そのサイクルを繰り返し世界全体を徐々に知っていく。期間は約2年のサイクルで考える。

観光には大きな力があると私は考える。各国にある魅力を伝えることができる。また、知らなかったことを知り、視野を広げることにもできる。これだけのことでも人の心を動かすことができると私は考える。人の心を動かせばそれは行動に変わる。自信と希望を持った国民自らの行動で自国を変えるのです。以上より私は国際協力と観光のコラボを考えました。